

令和4・5年度長崎県教育委員会指定
長崎県「学びの活性化」プロジェクト実践モデル校事業

令和4・5年度佐世保市教育委員会指定
「授業改善」

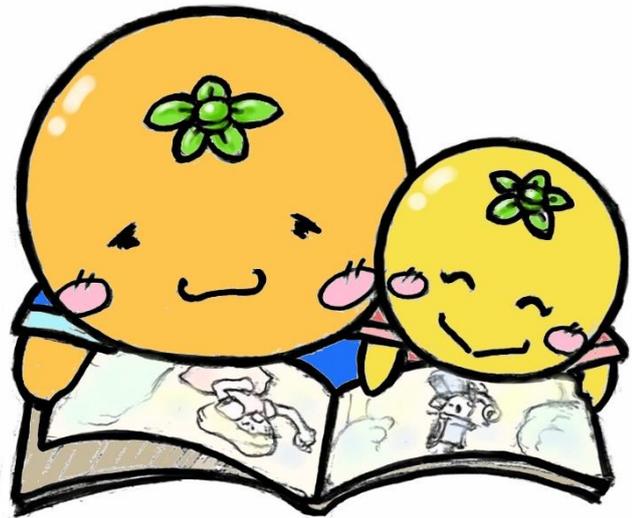
学習指導案・資料集



令和5年11月17日(金)
佐世保市立江上小学校

学習指導案

学級	教科	单元名	授業者
2年1組	算数	かけ算(2)	東邦彦
3年2組	算数	分数	角田 総志
6年2組	算数	比例と反比例	吉田 朋代



第2学年 算数科学習指導案

場所 2年1組 教室
授業者 教諭 東 邦彦

1 単元名 『かけ算(2)』

2 単元の目標

かけ算九九について、アレイ図を使った活動を通して6～9の段や1の段の九九を構成したり、かけ算を使って問題を解決したりすることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

3 評価規準

【知識・技能】 ①	アレイ図を使った九九の構成の仕方やかけ算が用いられる場面について理解する。また、かけ算の式に表したり、九九を唱えたりして、問題を解くことができる。
【思考・判断・表現】 ②	アレイ図を基に、かける数が1増えると積はかけられる数だけ増えることを使って、九九を構成することができる。
【主体的に学習に取り組む態度】 ③	かけ算や九九のよさが分かり、進んで用いようとする。

4 児童の実態 (研究に関わる)

- ・低学年の家庭学習では予習より復習に力を入れて指導してきたが、2学期に入り、自主的に予習をする児童が少しずつ増えてきた。その効果で、学習への見通しをもって授業に積極的に参加する児童が増えてきた。復習以外の学習(読書や日記)を自主的に行う児童も増えてきた。
- ・2学期から、1人1台端末を週末に持ち帰らせている。約半数の児童は、eライブラリでその週の算数の復習をしたり、Classroomに掲載した学習ページを活用したりしている。

5 単元の学習計画 (全13時間・本時12/13)

過程	時	学習内容	評価
課題 (計画)	1,2	・学習の動機づけ ・6の段の九九の構成と唱え方, 練習と適用題	②③
探求	3,4	・7の段の九九の構成と唱え方, 練習と適用題	②③
	5	・8, 9の段の九九の構成	②
	6	・8の段の九九の唱え方, 練習と適用題	①
	7	・9の段の九九の唱え方, 練習と適用題	①
	8	・1の段の九九の唱え方, 練習と適用題	①
	9	・かけ算の問題づくり	①②
	10	・練習	①②
活用	11	・乗法と加法, 減法を組み合わせた問題	①③
	⑫	・L字型に並んだ●の数をかけ算を使って求める問題 【本時】	①②
確認	13	・振り返り ・まとめ(生活の中でかけ算で表せるものを見付けよう)	①②

6 本時の指導

(1) 家庭学習とつなぐ手立て (仮説)

前日の家庭学習で復習に取り組ませ、さらに、予習(教科書の次時の内容に目を通す)をさせることで、児童は前時と本時の違いに気付いたり、解決への見通しをもったりすることができるだろう。

また、ふり返りの場面で Forms を活用し、同じ数のまとまりに着目して考えることができたかを自己評価させることで、家庭学習への意欲が喚起され、主体的に学習に取り組むことができるだろう。

(2) 展開 ((ICT) F→Forms・J=Jamboard・E=e ライブラリ)

【ねらい】		同じまとまりに着目して、L字型に並んだものの数を、かけ算を使って求めることができる。	ICT
過程(県が)	ガイド	○児童の活動 ・指導のねらいと手立て ※ [評価の観点]	ICT
復習 (家庭学習から)		○前時までの復習を行う。 ・乗法と加法、減法を組み合わせた計算の処理ができるようになる。	
めあて (課題)		○本時の問題を読み、題意を確認し、めあてを立てる。 【めあて】 同じ数のまとまりに目をつけて、かけ算をつかって考えよう。	
見通し		○どうすればできるか、方法と解決の見通しをもつ。 ・前時とどこが違うのかや図の中にかけ算を見付けることで見通しとする。 ・教科書 P39 の赤い補助線に着目させ、かけ算が使えることに気付かせる。	
自力解決		○見通しを基に、自力解決する。 ・Jamboard を使って図や式を指で書き込ませる。ヒントのページも作っておく。 ・早くできた児童には、他の方法も考えさせる。	J
話し合い (協働的な学び)		○各班で説明し合い、気付いたことを話し合う。 ・説明できる児童には自分の Jamboard で行わせる。(隣の児童や班の児童に) ・分からないときは、自分から聞くことを意識させる。 ○全体の場で発表し、考えを共有する。 ・モニターに映し、聞き手を意識して説明させる。(前方で指示棒を使って) ※ 図を使って考えたり説明したりしている。Jamboard・発言・観察 [思考・判断・表現] ②	J
まとめ		【まとめ】 同じ数のまとまりに目をつけると、かけ算を使っていろいろな求め方ができる。	J
確かめ (個別最適な学び)		○同質問題(あかねこ計算スキル 28)に取り組み、本時の学びを確認する。 ・確実に本時の内容が身に付くよう、分からない児童へは個別指導をしたり、できている児童には e ライブラリで学びを深めたりさせる。 ※ 練習問題を自分の力で解くことができたか。書き込み [知・技] ①	E
ふり返り (家庭学習へ)		○Forms に本時のふり返りをする。 ・次時の学習意欲へつなげるため、本日の家庭学習の課題を紹介する。	F

(3) 指導上の留意点と学習資料

○「見通し」では、「前時の問題(絵)とどこが違うか、今日の問題(絵)の中にかけ算は見えないか。」などの問いかけで、同じ数のまとまりに気付かせたい。その際、教科書の吹き出し中の補助線にも着目させたい。

○「自力解決」では、指で直接 Jamboard に考えを書かせる。早くできた児童には、別の方法も考えさせる。支援の必要な児童には、Jamboard でヒントを見せたり、友達の考えを見に行ったりしてよいことを伝える。

・予想される児童の考え

ア 縦のまとまりで考える。

イ 横のまとまりで考える。

ウ 全体から引くなど。

○「話し合い(協働的な学び)」では、既習内容を基に個人で考えさせるため Jamboard の共有機能は使用しない。個人で思考した後、隣同士や班で互いの考えを交流させる。その後、モニターを使って数人に、発表させる。

○「まとめ」では、同じ数のまとまりに着目して考えるよさを問い、まとめる。

○「確かめ(個別最適な学び)」では、あかねこ計算スキル(副教材)28 番をミニテスト形式(2分程度)で行う。終了した児童には個々のレベルに合わせて e ライブラリの練習問題にも取り組ませる。

第3学年 算数科学習指導案

場所 3年2組 教室
授業者 教諭 角田 総志

1 単元名 『 分数 』

2 単元の目標

分数について、その意味や表し方を理解し、数直線に分数を表して大小、たし算やひき算について考えたり説明したりすることを通して、分数についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

3 評価規準

【 知識・技能 】 ①	分数の表記、数としての分数、連続量としての分数などの意味が理解できる。 分数の大小の判断や、同分母分数の加減計算をすることができる。
【 思考・判断・表現 】 ②	単位分数の何個分という考え方を基に、分数の大きさの表し方を考えることができる。 同分母分数の加減計算の仕方について考え、説明することができる。
【 主体的に学習に取り組む態度 】 ③	端数部分を表すのに分数を用いることに関心をもち、よさに気付いて進んで生活や学習に活用しようとする。

4 児童の実態（研究に関わる）

- ・各自が次の学習のページを事前に読むことで、課題意識と見通しをもって授業に臨むようになってきている。
- ・自分の考えを説明することが得意ではないが、ICTを用いて自分で考えたり、伝えたりすることには少しずつ慣れてきている。

5 単元の学習計画（全10時間・本時7／10）

過程	時	学習内容	評価
課題 (計画)	1	・1mを単位にして測ったときの余りの長さの表し方を通して、単元の課題を把握 ・分数名人になろう（いろいろな分数を使いこなそう）	①③
探求	2	・単位分数の幾つ分という分数の意味の理解	①
	3	・かさ（液量）についての分数の表し方	①②
	4	・抽象数として捉えての単位分数や1との関係	①②
	5	・1より小さい分数の表し方	①②
	6	・分数の大小比較	①
	⑦	・同分母分数のたし算【本時】	①②
	8	・同分母分数のひき算	①③
活用	9	・学習のたしかめ、振り返り	①
確認	10	・学びのまとめ（生活の中で分数で表されているものを探そう）	③

6 本時の指導

(1) 家庭学習とつなぐ手立て (仮説)

予習として教科書を読ませ、学習内容の見通しをもたせることで、児童は安心して課題解決に臨み、主体的に学ぶことができるだろう。

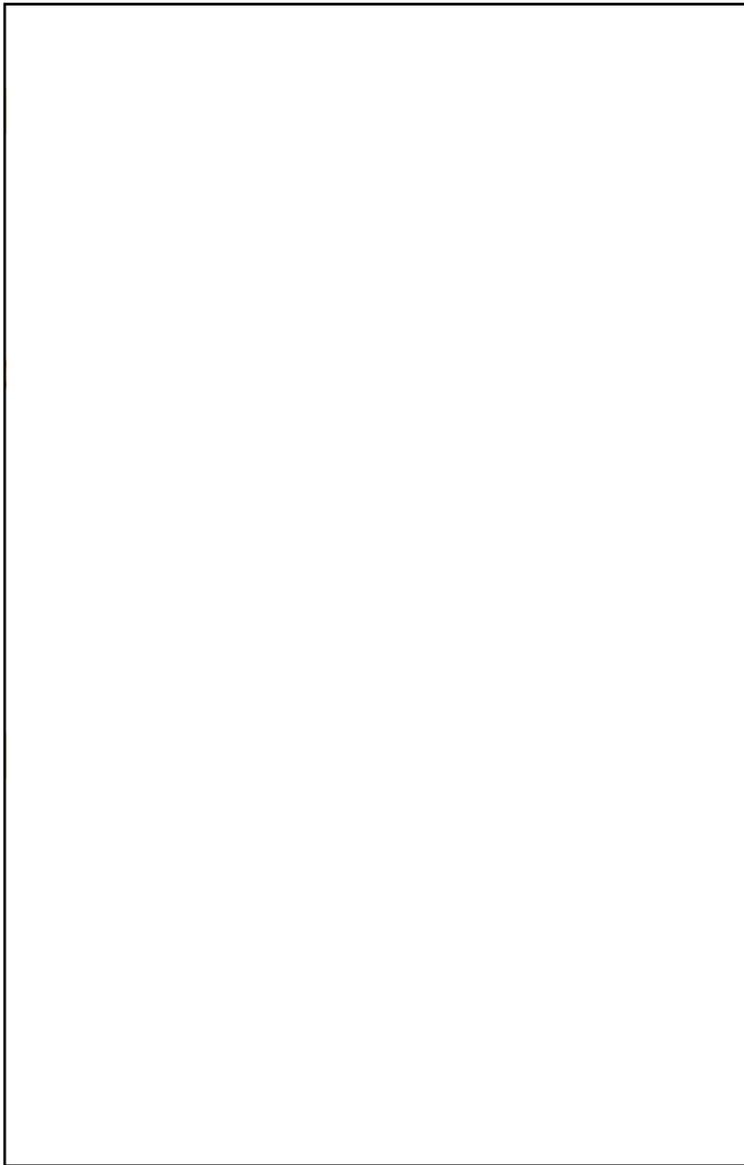
ふり返りの場面で Forms を活用させ、個々が具体的に家庭学習の内容を決められるようにすることで、学びの主体性を高めることができるだろう。

(2) 展開 (〈ICT〉 F→Forms・D=デジタル教科書・J=Jamboard・E=e ライブラリ・A=AI ドリルすらら)

【ねらい】 同分母分数のたし算の仕方を考え、計算することができる。

過程(県が)	ガイド	○児童の活動 ・ 指導のねらいと手立て ※ [評価の観点]	ICT
予習 (家庭学習から)		○教科書の本時内容に目を通す。 ・ 単元学習計画と前時からのつながりを基に課題意識をもたせる。	D
めあて (課題)	ガイド	○本時の問題を読んで題意を確認し、めあてを立てる。 【めあて】 分数のたし算のしかたを考え、計算できるようになろう。	D
見通し		○どうすればできるか、方法と解決の見通しをもつ。 ・ 「あわせる」という言葉からたし算であることに気付かせる。 ・ 分数同士のたし算ができるかと投げかけ、1L ますや数直線を基に考えるよう促す。	D
自力解決		○見通しを基に、自力解決する。 ・ Jamboard を使って個別に考えさせる。 ・ 1 を 5 つに分けたうちの 1 つ分が $\frac{1}{5}$ であることや、 $\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ が 2 つ分 (単位分数の何個分) であることを使って考えさせる。 ・ $\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ が 2 こ、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ が 1 こだから、 $\frac{1}{5}$ が (2 + 1) こなので、あわせて $\frac{3}{5}$	D J
話し合い (協働的な学び)		○各班で相談、説明、確認をし、計算のしかたについて話し合う。 ・ 互いのタブレットを見せ合い Jamboard を操作したり、それに書き込んだりして考えを伝え合う。 ・ Jamboard を基に考えを共有する。 ②の問題にも取り組み、計算の仕方を説明する。 ※1L ますや単位分数を使って、考えたり説明したりしている。 [Jamboard・発言・観察・思・判・表] ②	D J
まとめ		○全体で、考えを共有して本時の学びのまとめを行う。 【まとめ】 $\frac{1}{5}$ のような基になる大きさの分数が、あわせて何こになるかを考えれば、分数のたし算ができる。	D
確かめ (個別最適な学び)		○同質問題(練習問題 $\triangle 3$ $\triangle 4$) に取り組み、本時の学びについて確認する。 ・ 確実に本時の内容が身に付くよう、できない児童へは個別指導をする。 できている児童は e ライブラリ、AI ドリルすららで学びを深める。 ※練習問題を自分の力で解くことができたか。[知・技] ①	E A
ふり返り (家庭学習へ)		○Forms に本時のふり返りをする。 ・ 本時のふり返りを行い、次時の学習意欲へつなげる。 ・ 具体的に家庭学習へつなげるため、何を学習したいかを発表させる。	F

(3) 指導上の留意点と学習資料



【引用：わくわく算数3（309）〔啓林館〕 p.47】

- 問題を読んで、分かっていることを赤丸、聞かれていることを□で囲み、キーワードには波線を引かせることで題意を正確につかませる。
- 「見通し」では、 $\frac{1}{5}$ を基にして考えるとよいことに気付かせ、 $\frac{1}{5}$ の何個分になるのかを考えさせる。
- 「自力解決」では、Jamboardを使う。
1L ます図や数直線を使った操作活動を通して、基になる分数を使って考えさせる。
- ふり返りの視点として「説明できる」ということを意識させておくことで、目的意識が生まれ、話し合いが充実し、深い学びにつなげることができる。
- 2～3人で考えたことを互いに説明させる。
- 「確かめ」では、同質問題が終わった児童には eライブラリやAIドリル「すらら」を用いて、自分のレベルに合った練習問題を選ばせ、個別に取り組ませる。

7 家庭学習へ向けて

(1) ふり返り (Forms)

【算数ふりかえり】

今日のふりかえり

◎今日の学習はどこまでできましたか。

レベル1 【わからなかった】 (聞いていただけ)

レベル2 【わかった】 (まちがったけど)

レベル3 【できた】 (自分で解くことが)

レベル4 【せつめいできるくらいにわかった】 (発表したり教えたり)

その他

◎今日の学習はわたしたちのまわりのどこで使いますか。

学校

家の中

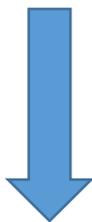
家の外

◎今日の学習で、何ができるようになりましたか。

記述式テキスト (短文回答)

- ① 今日の学習はどこまでできましたか？
 - レベル1 【わからなかった】 (聞いていただけ)
 - レベル2 【わかった】 (まちがったけど)
 - レベル3 【できた】 (自分で解くことが)
 - レベル4 【せつめいできるくらいにわかった】 (発表したり教えたり)
- ② 今日の学習は、わたしたちのまわりのどこで使いますか。
 - 学校
 - 家の中
 - 家の外
- ③ 今日の学習で何ができるようになりましたか。

○現在学習している単元はもとより、既習事項に関連する学習を確認することで、復習が必要な内容を把握し、家庭学習で取り組む内容を自分で選択できるようにする。



(2) 家庭学習チェックカード

家庭学習チェックカード

1日40分以上 家庭学習に取り組みましょう！ 名前 ()

※ 次の算数の学習をして15分、25分など書きこみましょう。
 ※ 算数または漢字の家庭学習に取り組んだら算・漢を○でかこみましょう。
 ※ 内容は「アプリ」「スキルズ」など書きこみましょう。
 ※ 自学は何をしたか「社まじめ」「算子スト」など書きこみましょう。教科書の音読をした場合は自学のらん
 ※ 音読に○をつけて題名を書きこみましょう。(音読は声に出して読んで家の人に聞いてもらいましょう。)
 ※ 読書(声に出さずに読んだ場合)もしたら、本の題名を書きこみましょう。
 ※ 内容はその日の学習やできごとを書きこみましょう。
 ※ すべて読んだら、かならず家の人にチェックしてもらい、サイン(印)をもらいましょう。

日	算数予習	算	漢	音読	読書	時間	家人	先生
月	○					(印)	(印)	(印)
火								
水								
木								
金								
土								
日								

<ひとこと日記>

月
火
水
木
金
土
日

月日	算数予習	算・漢	音読	読書	時間	家人	先生
月日					(印)	(印)	(印)

- e ライブラリの活用は、メタ認知力を高め自分に必要な学習を自分で選択することに向いている。(選択解答のみ)
- 「すらら」はAIドリルのため、現単元に取り組めば自動的に自分の弱点が分かり、その復習ができる。
- (問題は毎回数値が変わり、記述式解答)
- 家庭学習は、算数に限らず様々な教科や活動に取り組ませたい。
- 学習したことを実生活で活用する学習を積極的に推奨する。

第6学年 算数科学習指導案

場 所 6年2組 教室
授業者 教諭 吉田 朋代

1 単元名 『比例と反比例』

2 単元の目標

伴って変わる二つの数量について、比例や反比例の意味を理解し、その変化の様子や関係を式、表、グラフを用いて調べたり考えたりすることを通して、数量の関係の比べ方を考察するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

3 評価規準

【 知識・技能 】 ①	比例や反比例の意味や性質を理解し、比例や反比例の関係を、式や表、グラフに表すことができる。
【思考・判断・表現】 ②	数量の変わり方や関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの関係を表現しながら変化や対応の特徴を見だし、比例関係を利用して問題を解決することができる。
【主体的に学習に取り組む態度】 ③	身のまわりの伴って変わる二つの数量が比例や反比例の関係にあるかを進んで調べようとしたり、また、比例の関係を利用して身のまわりの問題を解決しようとしたりする。

4 児童の実態（研究に関わる）

- ・予習レベル3（めあてを立てる）の児童が多数となり、各自が自分の言葉でめあてを立て、各々が課題意識と見通しをもって授業に臨むようになってきている。
- ・1人1台端末は、普段から学習道具の一つとして利用し、毎日持ち帰り利用もしているため、タイピングはもとより様々なアプリや共有機能を利用することに慣れている。

5 単元の学習計画（全17時間・本時5／17）

過程	時	学 習 内 容	評価
課題 (計画)	1	・伴って変わる二つの数量の関係を調べることによる単元の課題と学習計画の設定	①③
探求	1	・比例する二つの数量の変化、比例の意味と性質の理解	②
	2	・比例する二つの数量の関係について二つの数量の比が一定であることへの理解	①
	3	・伴って変わる二つの数量が比例しているかの判別と説明	②
	4	・比例する二つの数量の関係の立式	①
	⑤	・比例の式を基にしたグラフの作成【本時】	①
	6	・比例する二つの数量の関係の立式とグラフの作成	③
	7	・比例のグラフの読み取り	①
	8	・伴って変わる二つの数量についての表、式、グラフを使った比例関係の考察	②
確認	9	・学習内容の習熟	①
活用	10	・比例関係の利用(全体のおよその数)	②
	11	・2本の比例のグラフを読み取る問題	②
探求	12	・反比例する二つの数量の変化や関係を調べること、反比例の意味や性質の理解	①③
	13	・反比例するかどうかの判断、身のまわりの反比例する二つの量の判別と説明	②
	14	・反比例する二つの数量の関係の立式	①
	15	・反比例の式を基にグラフの作成と、その特徴の理解	①
確認	16	・学習内容の習熟	①②
	17	・身の回りにおける比例・反比例するものを探して、式やグラフに表す活動	①②

6 本時の指導

(1) 家庭学習とつなぐ手立て (仮説)

教科書を読んでめあてを立てる予習に取り組み、解決の見通しや疑問をもたせることができれば、個々に合った学びの目標が設定でき、課題意識に即した授業が展開され、学びの主体性を高めることができるだろう。

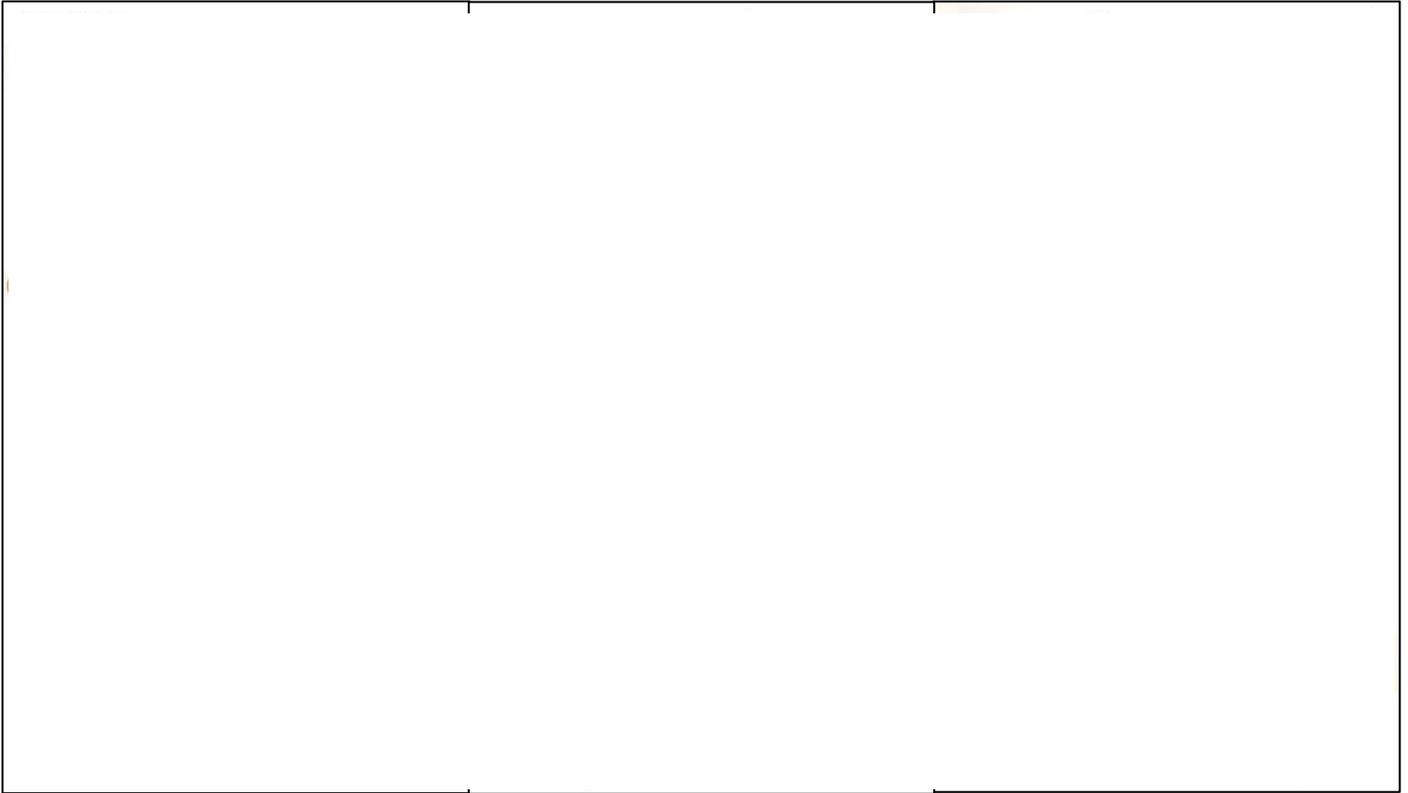
ふり返りの場面において、個々が一人一人の課題に応じて、具体的に家庭学習の内容を決められるようにすることで、学びの主体性を高めることができるだろう。

(2) 展開 (〈ICT〉 F→Forms・D=デジタル教科書・J=Jamboard・E=e ライブラリ・A=AI ドリルすらら)

【ねらい】 比例の式を基にグラフをかき、その特徴を理解する。

過程(県が)	ガイド	○児童の活動 ・指導のねらいと手立て ※ [評価の観点]	ICT
予習 (家庭学習から)		○教科書の本時内容に目を通し、自分の言葉で「めあて」を書く。 ・単元学習計画と前時からのつながりを基に課題意識をもたせ、Forms へ入力させる。	F
めあて (課題)		○本時の問題を読んで、題意を確認し、めあてを確認する。 【めあて】 比例する二つの数量の関係を、グラフにかこう。	F
見通し		○どうすればできるか、方法と解決の見通しをもつ。 ・既習内容「折れ線グラフ」を想起させることで、かき方の見通しをもたせる。	D
自力解決	ガイド	○見通しを基に、自力解決する。 ・x に対応する y の値を教科書の方眼紙に書き込ませる。 ・x が小数の場合の y の値を方眼紙に書き込ませる。 ・前時の[3]のグラフ(比例のグラフ)を準備し、二つのグラフから比例のグラフについて気付いたこと(交わる点や線についてなど)を Jamboard に書き込ませる。	J
話し合い (協働的な学び)		○各班で相談、説明、確認をし、気付いたことを話し合う。 ・分からないときは、自分から動くことを意識させる。(何を使っても誰に聞いてもよい)	J
まとめ		○全体の場で発表し、考えを共有して本時の学びのまとめを行う。 ・Jamboard で共有し、聞き手を意識させ、比例のグラフの特徴に着目させる。 【まとめ】 比例する関係を表すグラフは、(x の値 0, y の値 0) と x の値と y の値の対応する点を取り、直線で結べばかくことができる。	J
確かめ (個別最適な学び)		○同質問題(ドリル)に取り組み、本時の学びが「できるか」を確認する。 ・確実に本時の内容が身に付くよう、できない児童へは個別指導する。 できている児童は e ライブラリ、AI ドリルすらら、プリント等を自分で選択して学びを深める。 ※比例の関係をグラフに表すことを考え、かき方と特徴を理解する。書き込み [知・技] ①	E A
ふり返り (家庭学習へ)		○Forms に本時のふり返りをする。 ・次時の学習意欲へつなげるため、既習の方法と比べ、グラフに表すことのよさを想起させ、どんな生活の場面で生かせるかを考えさせる。 ・振り返りを基に、家庭学習で行う内容を具体的にチェックカードに書かせる。	F

(3) 指導上の留意点と学習資料



【引用：わくわく算数6（608）〔啓林館〕 p.154-156】

- 「自力解決」では、教科書に表をかく。水を入れ始める $x=0$ のときに対応する y の値から調べていくことを確認する。
- グラフのかき方を確認し、④に取り組ませる。
- 折れ線グラフとの違いをつかめるように、 x の値が小数のときの場合を考え、グラフに点をとらせる。
- 支援の必要な児童には、Jamboard のヒントカードを見たり、直接質問に動いたりしてよいことを伝えておく。
早くできた児童は、Jamboard の班別思考ボードに自分の考えを書かせる。
- Jamboard には、班別のホワイトボードの役割をもたせる。迷った際は共有機能で他の班の考えや、ヒントカード（ページ）を自由に見て参考にさせる。
- 「確かめ」では、同質問題が終わった児童は、e ライブラリや AI ドリル「すらら」を用いて、自分のレベルに合った練習問題に積極的に取り組ませる。さらにグラフをかく練習にも取り組むことができるようプリントを準備する。

7 家庭学習へ向けて

(1) ふり返り (Forms)

- ①今日の学習はどこまでできましたか？
 - レベル1【分らなかった】(聞いていただけ)
 - レベル2【分かった】(まちがったけど)
 - レベル3【できた】(自力で解くことが)
 - レベル4【説明できるくらいに分かった】(発表したり教えたり)
- ②今日の学習で自分が学んだこと(できるようになったこと)は何ですか？
- ③今日の学びには、今までに学習したどんな力が必要だと思いますか？
 - 3年「整数のかけ算・わり算」
 - 3年「たし・ひきの筆算」
 - : (3～6年生の既習単元)
 - 6年「分数÷分数」
 - その他
- ④今日の学びは、どんな時(場面)に使えるですか？
(または、もっと調べたいことがあれば教えてください)

○現在学習している単元はもとより、既習事項に関連する学習を確認することで、復習した方がよい学習内容を把握し、家庭学習で取り組む内容を選択できるようにする。

(2) 家庭学習チェックカード

- 「eライブラリ」の活用は、メタ認知力を高め自分に必要な学習を選択することに向いている。(選択解答のみ)
「すらら」はAIドリルのため、現単元に取り組めば自動的に自分の弱点が分かり、その復習ができる。
(問題は毎回数値が変わり、記述式解答)
- 自主学習は教科に限らず、様々な活動に取り組みたい。
学習したことを実生活で活用する学習を積極的に推奨する。

資料集

- ① 江上小 学びの習慣化メソッド
- ② 保護者配布資料
 - ・「新しい家庭学習について」(R4)
 - ・家庭学習のすすめ(R4 初期版)
 - ・家庭学習のすすめ(R5 改訂版)
- ③ パソコンの取り扱いについて
- ④ 家庭学習チェックカード
(低中高)
- ⑤ 家庭学習アンケート



※掲載している資料を，本校ウェブサイト
で公開しています。

(佐世保市立江上小学校で検索するか，右のQR
コードをご利用ください)



1 江上小 学びの習慣化メソッド (江メソッド)

具体的な手立ての系統表

高学年目標 家庭学習で**選択学習**と**自主学習**に取り組む。

中学年目標 家庭学習で自分に必要な学習を**選択**して取り組む。

低学年目標 **共通の課題**にきちんと取り組む基盤をつくる。

場面	手立て (メソッド番号)	効果	内容		
			低学年	中学年	高学年
授業	学習過程揭示	見通し(授業の流れ) 安心感 主体性	「授業(児童の活動)の流れ」を教室に掲示する。		
	ガイド ①	主体性 支持的風土	児童が教師と共にめあてをたて、自分たちで確かめ合う。	児童が自分でめあてをたて、学び合う。 (教師はサポーター) ・授業の進行をする。	児童が自分たちの言葉で授業を進行し、自分たちで学びを深める。 (教師はサポーター)
	ふり返り ②	メタ認知 主体性	児童の発言等で本時の学びを確認し、具体的な家庭学習へとつなぐ。	ノート or Forms で本時の学びを確認し具体的な家庭学習へとつなぐ。	Forms で本時の学びを確認し、具体的な家庭学習の内容をチェックカードに書き込む。
	予習 ③	見通し(本時の内容) 主体性 理解・定着 達成感	授業で学習した内容に応じた課題に取り組む。 (復習をしっかりとすることで、次時の入りをスムーズにし、中学年以降の「予習」につなげる。)	教科書(次回学習ページ)を読む。(Lv.1) ※レベル表参照 ・声に出して教科書を読む。	教科書(次回学習ページ)を読み、めあてをたてる。(Lv.3) ※レベル表参照 ・めあてをノートに書く。
	ICT活用 ④	興味関心 視聴覚 個別最適 メタ認知	【導入】デジタル教科書 【自力解決】Jamboard 【ふり返り】Forms 【家庭学習】eライブラリ 【連絡】classroom ※PC…発達段階に応じ、教師が指定した日に持ち帰る。	【導入】デジタル教科書 【思考】Jamboard(共有) 【ふり返り】Forms 【家庭学習】eライブラリ すらら(AIドリル) 【連絡】classroom ※PC…毎日持ち帰る。	【導入】デジタル教科書 【思考】Jamboard(共有) 【ふり返り】Forms 【家庭学習】eライブラリ すらら(AIドリル) 自主学習 ・自学ノート ・スライド など 【連絡】classroom ※PC…毎日持ち帰る。
	チェックカード ⑤	保護者の関与 承認欲求補充 学び方 (個別最適)	家庭学習の最後に、保護者のサイン(印)をもらう。 【内容】課題	【内容】課題+選択	【内容】選択(課題も選択の一つ) +自主学習
読書(楽読)	本好きにする (語彙力・ 読解力・ 知の習得)	家庭学習の最後には読書を楽しむ。 ・親子読書のすすめ	家庭学習の最後に3分間は読書を楽しむ。その後の時間や回数の制限なし。		
家庭学習					

新しい家庭学習(別紙「家庭学習のすすめ」)について

突然ですが子供さんへ質問です。「宿題は好きですか？」

この間に「はい」と即答できる子は何人いるでしょうか？

「宿題, いや『学ぶことが好き』な子供たちにしたい!!」

・・・そこで

~~宿題~~



家庭学習

「宿題」という考え方(呼び方)をやめて、「家庭学習」を常態化しましょう。

1. 必要なのは「学びに向かう力」(自ら学ぶ力)

「学力」について

例えば…今の時代, 計算の答えは, 計算機を使えばだれでも正確に求めることができますよね。ということはこの場合, 人に必要な力は, どんな式を立てればよいか? という「思考・判断・表現力」であり, 機器を使用するための「知識・技能」です。しかもこの知識や技能は, 日々アップデートされる(新しい技術がどんどん出てくる)ため, 「知識・技能を得る力」が重要になります。

つまり, 今後必要となる力とは, 膨大な情報, 目まぐるしく変化する環境に対して, 主体的に学び, 柔軟に考えを広げ深めようとする力【学びに向かう力】(自ら学ぶ力)といえます。

「宿題」について

「宿題」という言葉には「学校から出されている課題」, 「しないといけないもの」という, 『やらされている感』が強く出ています。また, 「学校が出している」ということから, 人が(学校が準備や事後を)してくれるのが当たり前だ, という感覚に陥りがちです。しかし, このように受動的な学び方では, 先に挙げた【学びに向かう力】が養われるどころか, 減退していくのは目に見えています。実際に「宿題」が好き! もっとしたい!! という子供はどれだけいるのでしょうか?

習慣づけるためには「与えること」も必要だ, という考えもあるでしょう。ただ, 本当に嫌々やらされていることは「習慣」になるのでしょうか? また, 努力に見合った効果を得られているのでしょうか? 人は, 好き, 楽しい, または自分のためになっていると思えることなら, 多少, いやむしろ非常に苦しく困難でも努力を続けることができるものです。甲子園球児など(この暑い夏にも負けずスポーツに勤しむことができる人)を見ていると本当にそう思います。

2. もともと人は「学ぶ」ことが好き!!

「やらされずに自分から学ぶ」「勉強が好き」…そんなのは理想で実際は無理じゃないか, と思われている方, 思い出してください。新しいランドセルや学習道具を手に, 初めての小学校, 初めての教科書

に目を輝かせていた子供たちの姿を。新しいことを知った時、できるようになったとき、楽しかったはずです！テレビでは、いつの時代も「クイズ番組」があり、老若男女を問わず「娯楽」として親しまれています。人は「学ぶ」ことが好きなのです。

では、なぜ勉強嫌いになるのか…そこで見えてくるのが「周りの環境やかかわり方」です。

3. 気持ちを切りかえる 学校と家庭の「すみ分け」

「集中力」について

様々な論文によって差異はありますが、おおむね人の集中力は子供の場合「30分程度」、大人でも平均「45～50分」であり、最長でも「90分」だと言われています。またその持続時間のなかでも「15分ごとに波」があり、それを3回（計45分）迎えた後は弱くなっていくそうです。

つまり、長すぎる学習時間や意識は逆効果とも言えます。大切なのは、『長さ』ではなく『質』であり、「休憩」や「気分転換」も学習の重要なポイントになってくるわけです。にもかかわらず、これまでの「宿題」は、学校の延長線上的という意識がついて回り、極端に言うと子供たちは一日中学校に縛られている…という感覚に陥ることもあります。これでは、どんなに好きなことでも嫌になって当然ですよ。そこで・・・

「すみ分け」について

ここで一度「学校」と「家庭」は、そもそも別環境であるということを生かし、それぞれの学び方をきちんと分けて考えてみたいと思います。

【学校での学習】

・「授業（45分単位）で『学ぶ』」… 発達段階に応じて、その学年で身に付けることを学ぶ。

【家庭での学習】

・「家庭学習で『学ぶ』」… 各家庭や個に応じて、より学びたいこと、必要なことを学ぶ。

この場合、考えられる効果と課題には下記のようなものがあります。

《 効果 》

- 気持ちを切り替えて、どちらの学習にも集中しやすい。
- 主体的に学ぶ（自分から学ぶ）意識や経験を積みやすい。
- 各家庭の実情や、個に応じた学習ができ、その子に合った力を伸ばしやすい。

《 課題 》

- 何を、どう学習すればよいか が、わからない子がいる。（特に低学年）
- 現状、強制しないと自分から学習していない子がいる。
- 保護者が忙しくて、子供の学習に関われる時間がとれない。

そこで、この課題を解決するために「**家庭学習のすすめ**」（別紙）を作成しました。具体的な方法についてはそちらをご覧ください。保護者の皆様におきましては、この機会にぜひ趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、どうぞよろしく申し上げます。



家庭学習のすすめ

(令和4年度版)

R4, 8/29発行
佐世保市立江上小学校

はじめに、これは決して保護者に負担を求める取組ではありません。実質これまでとほとんど変わらない取組で、効果を高めるための意識と考え方、関わり方を推奨する手引きです。子供が自分で学ぶことができるようになれば、子供にとっては未来への大きな財産となります。

3つのポイント

- ① **予習と自主学習** …「学習の仕方」は、学校でも教えていきます。
- ② **必ずチェック** …子供の頑張りを見て(聞いて)、励ましてあげてください。
- ③ **読書を楽しむ** …課題ではなく、読書することの楽しさを知る(習慣をつける)

①「予習と自主学習」について

予習をしましょう

授業への見通しをもつことができ、(学びに向かう)効果は絶大!!

Lv.1で十分OK!!
続けることが大切だよ

Lv.1	次の授業で学習するページ(教科書)を読むだけ ※問題を解く必要はなく、わからないところもそのままOK!!	
Lv.2	読みながら、ポイント(分からないところや、大事だと思うところ)に線を引いておく。	
Lv.3	自主学習につなげて意味調べをしたり、問題を解いてみたりする。	

自主学習ができるようになることを目指します

成長に応じて、徐々に自ら判断する選択の幅を広げていくイメージです。そのために学校では様々な学習の仕方や、個に応じた課題、内容の選択肢を与えながら促していきます。

(低学年)※1	(中学年)	(高学年)
自由度(選択の幅)		
1. 学校の課題に取り組む。 	1. 学校の課題に取り組む。 2. 自分に合った内容を <u>選んで</u> ※2学習する。	1. 学校の課題に取り組む。 2. 自分に合った内容を選んで学習する。 3. 自分で計画し、 <u>自主学習</u> ※3に取り組む。

※1 学年はあくまで目安です。個に応じた目標をもって取り組んでみてください。

※2 今の自分の力や特性(何ができて、何ができないか)を、できるだけ客観的に見る力「メタ認知力」を高めて、自己判断ができるようにしていくことが、より効果的な自主学習につながります。

※3 自主学習については、別紙「自主学習の手引き」という内容一覧を用意しています。

② 「必ずチェック」について

子供は、見られている（関心をもたれている）とがんばれます！！…でも見られていなければ、しなくなってしまう（まだ自らを律する力が弱い）というのもまた、子供あるあるです。



**保護者が、子供のがんばり（学習内容）を確認し、
学習チェックカードへ「サイン（捺印）」をお願いします。**

※ できるときでよいので、努力を認めてあげる声かけや、カードへちょっとした書き込みなどをしてあげるとお子様は喜びます。

できれば・・・	子供が学習し終わった後に、その内容を聞く。	➡ 関心をもち励ます 努力を認める
さらにできれば	子供が学習している様子を、見ている。	
もっとも可能ならば	子供のそばについて、一緒に学習する。	

※ 高学年になると児童が自分でサインをしてしまうことがあります。その場合は捺印をお願いします。

※ 「家庭学習」は本来、各家庭が、各々の判断によって行うものですので、保護者の方が家庭の事情や子供さんの実態に合わせて、内容や量を調節したり、早く寝せて休ませる日があったりしてもよいのではないのでしょうか。そのような場合も含め、最終的に「保護者の方が OK を出しましたよ」という証明のためにも、サインをお願いします。

③ 「読書を楽しむ」について



最後に 読書を楽しもう♪

※まずは3分！！ いろいろな本との出会いを楽しもう☆

読書も学習のうち…ですが、「学習するために（課題で）読む」という考えではなく、読書そのものの楽しさを知ることが目的です。まず本を開いて、読むこと（出会い）がなければ読書は始まりません。最初は「3分間」と決めてもよいので、その間は絶対に「読む」ようにしてみてください。読み始めさえすれば自然と読む時間はのびていきます。家庭学習の最後に読書をする事で、いずれ30分でも60分でも、あとは好きなだけ読書を楽しんでもらえれば何よりです。また、親子で同じ時間にそれぞれ本を広げて読書を楽しむのも効果的です。読書の楽しみを知ったら、そこから自主学習につなげていく（順番を換えていく）というのもよいですね。

☆ 「家庭学習」に対する指導について ☆

家庭学習をしてこないことについて、学校で指導をすると、その分、きちんとしてきた児童の学習時間や、気持ちよく学習する機会をも奪ってしまうこととなります。（個別指導でもその分の時間を費やします）また、指導された児童も、より「やらされる感」や「能動的意識」が高まる悪循環となるため、やってきたことや、やったことで学校の授業で生かされていることなどに目を向けながら、プラスの声掛けをしていきたいと思います。

ぜひ、ご家庭でもご理解いただきながら、「家庭学習がんばったね」「やってよかったね」といったプラス面に目を向け、声をかけながら、一緒に楽しんでいただけると何よりです。



家庭学習のすすめ

(令和5年度版)

R5, 9/1 発行
佐世保市立江上小学校

1 自ら学び続ける力【学びの自走】を育むために

一般的にやられる学習は、自分で考えていないため学習効率が悪く（たくさんしても身に付きにくく）、学習嫌いや責任感が希薄（他人のせいにして成長しない人）になりがちです。

それに対して自ら行う学習は、目的に向けて考えるため学習効率が高く（少ない時間でも身に付きやすく）、学びを楽しみ、責任感のある（自らを省みて成長し続ける）人を育むことができます。

そこで江上小学校では、ご家庭での学習を、「宿題」（やられるもの）ではなく、「家庭学習」（自ら行うもの）とし、『自ら学び続けることのできる児童』の育成を目指しています。

大切にしていくことは **やる気（モチベーション）の向上 と 継続（習慣化）** です。

~~宿題~~

（やられる《画一的課題》）



家庭学習

（やりたい／自ら選択《個に応じた課題》）

2 画一的から【個別最適】な学びへ

はじめは（低学年）、学校という集団の中での学び方や、課題に取り組むという「学ぶ習慣」を身に付けるために、学校が与えた課題に取り組むことを目指します。

次に、学習方法や内容を「自分で選択して」取り組むことを目指します。

最終的に、自分で選択し、より多様な学びを楽しむ「自主学习」に取り組むことを目指します。

成長に応じて、徐々に自ら判断する選択の幅を広げていくイメージです。そのために学校では様々な学習の仕方や、個に応じた課題、内容の選択肢を与えながら促していきます。

ポイントは、児童自身に決定させる **『児童自らが選択する』** ことです。

（低学年）※1	（中学年）	（高学年）
自由度（選択の幅）		
1. 学校の課題に取り組む。 	1. 学校の課題に取り組む。 2. 自分に合った内容を選んで学習する。	1. 学校の課題に取り組む。 2. 自分に合った内容を選んで学習する。 3. 自分で計画し、 <u>自主学习</u> に取り組む。

※1 学年はあくまで目安です。個に応じた目標をもって取り組んでみてください。

3 具体的な【3つの手立て】（裏面の詳細をご覧ください）

① **予習** … どんなことをするのか？ 見通しがもてれば安心して授業に臨めます☆

② **保護者のチェック** … 子供の頑張りを見て（聞いて）、励ましてあげてください。

③ **読書を楽しむ（楽読）** … 学習ととらえず、^{らくどく}純粋に読書を楽しみましょう♪

① 「予習」について

先に何があるのか見通しが持てるだけで、人は安心して授業に臨むことができます。目的をもって授業に臨めば、学習効率も大幅にUPします。

Lv.1でも十分OK!!
続けることが大切だよ

Lv.1	次の授業で学習するページ（教科書）を読むだけ ※ 問題を解く必要はなく、わからないところもそのままOK!!	
Lv.2	ポイントに線を引く。 (疑問「？」に思ったところや、大事だと思うところ)	
Lv.3	次の授業の『めあて』をたてる。 (事前に意味調べをしたり、問題を解いてみたりしてもいいね)	

② 「保護者のチェック」について

子供は、見られている（関心をもたれている）とがんばれます!!…でも見られていなければ、しなくなってしまう（まだ自らを律する力が弱い）というのもまた、子供あるあるです。

**保護者が、子供のがんばり（家庭学習）を確認し、
【学習チェックカード】へサイン（押印）をお願いします。**

※ 努力を認めてあげる声かけや、カードへひとこと書き込みなどをしてあげると喜びますよ。

できれば・・・	子供が学習し終わった後に、その内容を聞く。	 関心をもち励ます 努力を認める
さらにできれば	子供が学習している様子を、見ている。	
もっとも可能ならば	子供のそばについて、一緒に学習する。	

※ 高学年になると児童が自分でサインをしてしまうことがあります。その場合は押印をお願いします。

※ 「家庭学習」は、各家庭が各々の判断によって行うものです。保護者の方が家庭の事情や子供さんの実態に合わせて、内容や量を調節したり、早く寝せて休ませたりする日もあると思います。最終的に「保護者の方がOKを出しましたよ」という証明のためにも、サインをお願いします。

③ 「読書を楽しむ（楽読）」について



家庭学習の最後に 読書を楽しもう♪

※まずは3分!! いろいろな本との出会いを楽しもう☆

学習のために（課題で）読むという考えではなく、読書の楽しさを知り、習慣化することが目的です。ですから『読書はご褒美』ととらえてください。

まず本を開いて、読むこと（出会い）がなければ読書は始まりません。最初は「3分間」と決めて、その間は絶対に「読む」ようにしてみてください。読み始めさえすれば自然と読む時間はのびていきます。家庭学習の『最後』に読書をすることで、その後の時間は無制限。あとは好きなだけ読書を楽しんでもらえれば何よりです。

また、親子で同じ時間にそれぞれ本を広げて読書を楽しむのも効果的です。読書の楽しみを知ったら、そこから自主学習につなげていく（順番を換えていく）というのもよいですね。

☆ 「家庭学習」に対する学校での指導について ☆

学校では「してこないことへの指導」ではなく、学習の必要性を説いたり、具体的な方法を教えたりしながら、努力を認めるプラスの声掛けをしたいと思っています。これからの世の中『自ら学ぶ力』をつけることはお子様の将来にとって必要不可欠です。そして将来は「今」の積み重ねの先にあります。ぜひご家庭でもご理解いただき、「がんばったね」「やってよかったね」と声をかけながら、一緒に楽しんでいただければ何よりです。

パソコン(chromebook)の取り扱いについて

国の“GIGA スクール構想”により、現在子供たちには1人1台の電子端末（長崎では chromebook）が貸し与えられています。そこで江上小学校では、現状、使用法について下記の要領で取り扱いたいと考えています。ご確認ください。

PC は、教科書、ノートなどと同様、学習道具の一つとして捉えてください。

- 使用することが（常に持ち運ぶことが）当たり前の道具となります。
… 使用することで慣れ、正しい使い方や使用の際のルールを守れるようにしていきましょう。

毎日、家庭に持ち帰ります。（学校に持ってきます）

- 充電器をご家庭で保管し、毎日充電してください。
- PC はランドセルで持ち運びします。（手持ちや、登下校中の使用は×）
- 教科書は学校に置いたままにし、その日に家庭学習に必要な物を持ち帰ります。
… 「家から持ってくる」ではなく、「学校から持って帰る」という、これまでと真逆の考え方です。
ランドセルの中身が重くなる問題に対して、軽減されると共に、家庭学習への意識づけも図れます。

家庭学習や、リモート授業でも使用します。

- 家庭学習の課題に「e ライブラリ」や「Ai ドリル（今後使用の可能性有）」利用により、個に合った学習が可能。
… 学校から出される課題だけでなく、様々な学年の様々な教科を自由を選んで学習することも可能です。
また、取組後すぐに成否や解答が分かるため、学習効果も高まります。
- 体調を崩さずに自宅待機など、長期にわたり学校で授業が受けることが難しい場合には、Google Meet 機能を用いてリモートで授業に参加することが可能となります。
- Wi-Fi 環境のあるご家庭では、Wi-Fi 接続されてください。
… Wi-Fi 環境がなくても、通常 Softbank の LTE 接続（月5Gまでの制限有）ですので、使用可能です。

かていがくしゅうチェックカード



まいにち きちんと とりくみましょう☆ なまえ(



)

月日	国語の音読	算数のカード	かん字	算数のよしゅう	プリント	eライブラリ	その他 (読書や日記など)	家の人	先生
/ 月								(印)	(印)
/ 火								(印)	(印)
/ 水								(印)	(印)
/ 木								(印)	(印)
/ 金								(印)	(印)
/ 土								(印)	(印)
/ 日								(印)	(印)
〈おうちの人から〉									
/ 月								(印)	(印)
/ 火								(印)	(印)
/ 水								(印)	(印)
/ 木								(印)	(印)
/ 金								(印)	(印)
/ 土								(印)	(印)
/ 日								(印)	(印)
〈おうちの人から〉									





家庭学習チェックカード



自分から家庭学習に取り組みましょう！ 名前 ()

☆ 下の①②③④を書いてから下校しましょう。

※ ①算数予習「p.25」など ②算数・漢字の課題「プリ」「スキル2」など ③自学「プリント・漢字」など ④読書「読んだ本の名前」など

※ 算数予習【 レベル1 (読む) / レベル2 (問題に○□~をつける) / レベル3 (めあてを書く) 】

☆ ①から④まで順に進めましょう。最後に取り組んだ時間の合計を書きましょう。

☆ 日記はその日の学習のふり返りを書きましょう。家の人にメッセージをもらうのもOK!

※ ひとこと日記(学習で意識したところ,わかるようになったところなど書こう)

☆ すべて終えたら,かならずお家の人にチェックをもらい, にサイン(印)をもらいましょう。

月日	① 算数予習	② 算数・漢字	③ 自学	④ 読書	学習時間計	家の人	先生
/	P. 分	算・漢 分	分	本の名前 分	分	(印)	(印)
/	P. 分	算・漢 分	分	本の名前 分	分	(印)	(印)
/	P. 分	算・漢 分	分	本の名前 分	分	(印)	(印)
/	P. 分	算・漢 分	分	本の名前 分	分	(印)	(印)
/	P. 分	算・漢 分	分	本の名前 分	分	(印)	(印)
/	P. 分	算・漢 分	分	本の名前 分	分	(印)	(印)

月	
火	
水	
木	
金	
土/日	



家庭学習チェックカード 名前 (_____)

毎日必ずお家の人に見てもらい、 にサイン(印)をもらいましょう。



- 1 【自己評価】 ◎ とともがんばった ○ がんばった △ 少しがんばれた
 2 【予習レベル】 Lv.1 教科書を読む Lv.2 線を引く Lv.3 めあてをたてる

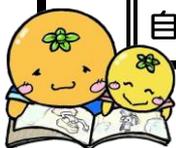
/	漢字	<input type="checkbox"/>	予習	Lv.	読書	(書名)	(学習時間)	保護者(印)
	eライフル	<input type="checkbox"/>	【内容】			【日記】		
	すらら	<input type="checkbox"/>						
	自主学习	<input type="checkbox"/>						
(月)	担任印							

/	漢字	<input type="checkbox"/>	予習	Lv.	読書	(書名)	(学習時間)	保護者(印)
	eライフル	<input type="checkbox"/>	【内容】			【日記】		
	すらら	<input type="checkbox"/>						
	自主学习	<input type="checkbox"/>						
(火)	担任印							

/	漢字	<input type="checkbox"/>	予習	Lv.	読書	(書名)	(学習時間)	保護者(印)
	eライフル	<input type="checkbox"/>	【内容】			【日記】		
	すらら	<input type="checkbox"/>						
	自主学习	<input type="checkbox"/>						
(水)	担任印							

/	漢字	<input type="checkbox"/>	予習	Lv.	読書	(書名)	(学習時間)	保護者(印)
	eライフル	<input type="checkbox"/>	【内容】			【日記】		
	すらら	<input type="checkbox"/>						
	自主学习	<input type="checkbox"/>						
(木)	担任印							

/	漢字	<input type="checkbox"/>	予習	Lv.	読書	(書名)	(学習時間)	保護者(印)
	eライフル	<input type="checkbox"/>	【内容】			【日記】		
	すらら	<input type="checkbox"/>						
	自主学习	<input type="checkbox"/>						
(金)	担任印							



家庭学習アンケート

学習習慣	①宿題	学校の宿題を全部やりとげて、提出日に先生に出しています。
	②習慣	家庭学習の時間と内容を決めて、毎日コツコツと取り組んでいます。
	③復習	学校の授業で学んだことを、家に帰ってから復習しています。
生活習慣	④時間	一日にテレビを見る時間や、ゲームやメールをする時間を決めています。
	⑤睡眠	毎日、早寝早起きをしています。
	⑥食事	毎日ほとんど同じ時刻に、朝ご飯と晩ご飯を食べています。
自律心	⑦準備	次の日の授業に必要な教科書やノートなどは前の日の夜に、自分で準備しています。
	⑧整理	家では学習をしている場所を整理し、いらないものはかたづけています。
	⑨自律	学校の先生やお家の人にいわれなくても、自分から進んで家庭学習をしています。
自己学習力	⑩計画	学校のテストや試験の前には、家で計画を立てて学習にとりかかっています。
	⑪目標	ページ数や問題の数、時間、点数など、やりとげる目標を決めて学習しています。
	⑫教えあい	学校の友だちと、宿題や自主勉強について教えあったり励ましあったりしています。
自己コントロール力	⑬苦手	家で学習するときは、苦手な教科もしっかりと学習しています。
	⑭集中	家では、テレビやゲーム機、ケータイなどをつけないで集中して学習しています。
	⑮克服	やりたくない難しい問題や課題でも、自分から進んで学習しています。
自己マネジメント力	⑯記録	毎日家でどんな学習をしたか、ノートなどに記録をつけるようにしています。
	⑰反省	計画したとおりに家で学習できたかどうか、ふり返って反省しています。
	⑱改善	自分の家庭学習のしかたをふり返って、改善しています。
生涯学習力	⑲社会	ふだんからテレビのニュースや新聞記事で、社会の動きを知るようにしています。
	⑳辞書	家でも辞書を引いたり、事典やインターネットでわからないことを調べています。
	㉑読書	マンガだけでなく、いろいろな種類の本を読むようにしています。
自己成長力	㉒評価	自分の家庭学習で、できているところとできていないところがかかっています。
	㉓得意	自分の得意なことを伸ばすために、宿題のほかに自分から進んで家で学習しています。
	㉔夢	将来やりたい仕事や行きたい学校の夢をもって、家で学習をしています。